

# 岩波ブックセンター 信山社 連続フェア

## (全6回／2013年3月～8月)のご案内

### ～大事に売っていききたい本～

岩波書店創業 100 年を記念し、岩波ブックセンター信山社では、過去・現在・未来へと伝えられ、書店としていつまでも大事に売っていききたい本の数々を、＜書物復権＞9社の協力を得て、6回連続で展示いたします。

第4回のテーマは「境界」。たとえば領土紛争、「国境」がからむと人はなぜ感情的になるのでしょうか？そこには政治・経済では割り切れない深層がありそうです。国、民族、宗教、言語、科学等の「境界」からは、ふだんは見えにくいものが姿をあらわします。

<<< 5月展開《思想の十字路》

7月展開《書き手との新たな出会い》>>>

## 境界 [2013年6月展開]

\*価格は税込みです。

<b>私だけの神</b> ウルリッヒ・ベック／鈴木直訳 3,465円 宗教は、果たして自らを文明化できるのか？	岩波書店	<b>神と人のはざまに生きる</b> アンヌ ブッシー 3,360円 日本近代の豊富な民間信仰の姿を生き生きと描き出す。	東京大学出版会
<b>朝鮮半島の平和と統一 分断体制の解体期にあたって</b> 白楽晴／青柳純一訳 2,415円 困難は大きい。しかし我々には実現出来る！	岩波書店	<b>北緯 10 度線 キリスト教とイスラームの「断層」</b> イライザ・グリズウォルド著／白須英子訳 3,150円 平和的に共存していた2つの宗教の衝突の過程を克明に描く。	白水社
<b>ヒトはいかにヒトになったか ことば・自我・知性の誕生</b> 正高信男 1,890円 最新の脳科学を背景に、ことば・自我・知性が誕生した謎を探究。	岩波書店	<b>ネイションという神話 ヨーロッパ諸国家の中世的起源</b> パトリック・ギアリ著／鈴木道也、小川知幸、長谷川宜之訳 3,990円 近代ナショナリズムが拠り所とする国家の「民族的起源」とは何か。	白水社
<b>イスラームから見た「世界史」</b> タミム・アンサーリー 3,570円 「世界史」の境界を解体する、もう一つの世界史。	紀伊國屋書店	<b>絶滅していく言語を救うために ことばの死とその再生</b> クロード・アジェージュ著／糟谷啓介訳 7,140円 社会言語学的観点から「言語帝国主義」に警鐘を鳴らす。	白水社
<b>超心理学 封印された超常現象の科学</b> 石川幹人 2,940円 「モノ」と「ココロ」の境界を科学する、超心理学研究の最前線。	紀伊國屋書店	<b>土着語の政治</b> ウィル・キムリッカ 5,460円 独自の教育を行う権利や広範な自治権、既存の国家から分離独立する権利。	法政大学出版局
<b>ユーザーイリュージョン 意識という幻想</b> トール・ノーレットランダーシュ 4,410円 「意識」と「無意識」の境界とは？ 意識神話を解体する。	紀伊國屋書店	<b>他者の権利 外国人・慰留民・市民</b> セイラ・ベンハビブ 2,730円 道徳的普遍主義とコスモポリタンの連邦主義にもとづく政治共同体の境界線を考察。	法政大学出版局
<b>文化系統学への招待</b> 中尾央・三中信宏編著 3,360円 文系・理系の壁をこえる新しい学問の冒険！	勁草書房	<b>ビダハン 「言語本能」を超える文化と世界観</b> D.L.エヴェレット／屋代通子訳 3,570円 アマゾンの奥地、少数民族「ビダハン」の言語と認知世界を描く科学ノンフィクション。	みすず書房
<b>進化論はなぜ哲学の問題になるのか</b> 松本俊吉編著 3,360円 現在発展中の注目分野、「生物学の哲学」への招待。	勁草書房	<b>好き？ 好き？ 大好き？</b> R.D.レイン／村上光彦訳 2,415円 瞬間の洞察、複雑な交換関係、古い歌への新しい叙情、新しい「シナリオダイアログ」。	みすず書房
<b>瀬名秀明ロボット学論集</b> 瀬名秀明 3,150円 ヒトとロボットの境界とは？ 物語・生命・世界のつなぎかたの探究へ。	勁草書房	<b>かくれた次元</b> エドワード・T・ホール／日高敏隆・佐藤信行訳 3,045円 空間に対する認識と行動の側面から、生物的人間と文化的人間の構造を解明する。	みすず書房
<b>面白いほどよくわかる 世界の宗教／宗教の世界</b> ひろさちや 1,995円 複雑にからんだ世界をもっと理解するために、8大宗教を一挙に横断。	春秋社	<b>闘争する境界 復帰後世代の沖縄からの報告</b> 知念ウシほか 1,890円 まなざされるものからまなざす主体へ。復帰後世代の沖縄からの報告。	未来社
<b>オウム真理教の精神史</b> 大田俊寛 2,415円 幻想の由来を思想的視点から解明。渾身の現代宗教論。	春秋社	<b>魂振り 琉球文化・芸術論</b> 高良勉 2,940円 沖縄からの現状報告。沖縄の詩人・高良勉の琉球文化・芸術論の集大成。	未来社
<b>科学哲学</b> A・ローゼンバーグ 3,990円 科学にはなぜ哲学が必要か？ すべての哲学ファンに送る概説書。	春秋社	<b>camp OKINAWA</b> 東松照明 5,040円 沖縄写真家シリーズ〈琉球烈像〉の1冊。透徹した構図で沖縄を捉えた114点収録。	未来社
<b>ナボコフ 訳すのは「私」</b> 秋草俊一郎 3,990円 バイリンガル作家ナボコフの創作と翻訳のダイナミズムを描き出す快著。	東京大学出版会		
<b>民族という虚構</b> 小坂井敏晶 3,360円 民族とは何か、を考えるすべてのひとのためのテキスト。	東京大学出版会		